

### 【今日の説教から】

ヨエルの予言を引き、ダビデの預言を引き、ペンテコステの出来事を明確に説明したペテロは、神様はイエス様をメシア・救い主として立てられた方であり、聖書が預言している方であることを宣べ、人々は心を刺し貫かれ、多くの人たちが信じました。

それに続いて今日の箇所ではモーセや他の預言者たちの言葉や、神様がアブラハムに語られた言葉を通して聴く人たちにイエス様が確かに神様の元から遣わされ、聖書全体が証しするお方であることを語りました。

この、聖書全体からイエス様のことを証しする手法は、エマオの途上でイエス様が語られた方法と同じものでした。

「『ああ、愚かで心のにぶいたため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか』。こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた。」

「あなたがたの兄弟の中から、ひとりの預言者をお立てになるであろう。その預言者があなたがたに語ることに、ことごとく聞きしたがいなさい」という御言葉、「地上の諸民族は、あなたの子孫によって祝福を受けるであろう」という旧約聖書の御言葉の本当の意味を、イエス様を焦点に見ることによって知ることが出来ます。イエス様を生活の焦点にする時、私たちが人生の意味を知るのです。

皆様おはようございます。7月も下旬に入りました。心なしか、しのぎやすくなったように感じます。7月にして残暑というような、季節がずれているような不思議な感覚を覚えますが、この冬はどうなるのだろうかなどと、ついつい先のことを考えてしまいます。皆様はお元気にお過ごしでいらっしゃいましたか。

さて、圧巻のペテロの説教を読み進めております。

ヨエルの予言を引き、ダビデの預言を引き、ペンテコステの出来事を明確に説明したペテロは、神様はイエス様をメシア・救い主として立てられた方であり、聖書が預言している方であることを宣べ、人々は心を刺し貫かれ、多くの人たちが信じました。

それに続いて今日の箇所ではモーセや他の預言者たちの言葉や、神様がアブラハムに語られた言葉を通して聴く人たちにイエス様が確かに神様の元から遣わされ、聖書全体が証しするお方であることを語りました。

この、聖書全体からイエス様のことを証しする手法は、エマオの途上でイエス様が語られた方法と同じものでした。

「『ああ、愚かで心のにぶいたため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。

キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか』。こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた。」

聖書には、イエス様のことを語っている個所がたくさんあります。

イザヤ 9:6 ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。

9:7 そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもって／これを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心がこれをなされるのである。

イザヤ 53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

ダニエル書 3:23 シャデラク、メシャク、アベデネゴの三人は縛られたままで、火の燃える炉の中に落ち込んだ。

3:24 その時、ネブカデネザル王は驚いて急ぎ立ちあがり、大臣たちに言った、「われわれはあの三人を縛って、火の中に投げ入れたではないか」。彼らは王に答えて言った、「王よ、そのとおりです」。

3:25 王は答えて言った、「しかし、わたしの見るのに四人の者がなわめなしに、火の中を歩いているが、なんの害をも受けていない。その第四の者の様子は神の子のようだ」。

私たちは聖書の中心がイエス様にあるという事を知っていますが、イエス様が生まれる以前の人たち、そして驚くべきことにイエス様をじかに見た人たち、その奇跡を見て、その力強いお話をじかに聞いた人たちの間でも、主を信じることの出来なかった人たちのことを知るのです。イエス様のことをパウロが奥義と呼ぶことも分かるような気がします。

エペソ 3:1 こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているこのパウロ――

3:2 わたしがあなたがたのために神から賜った恵みの務について、あなたがたはたしかに聞いたであろう。

3:3 すなわち、すでに簡単に書きおкуったように、わたしは啓示によって奥義を知らされたのである。

3:4 あなたがたはそれを読めば、キリストの奥義をわたしがどう理解しているかがわかる。

3:5 この奥義は、いまは、御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに啓示されているが、前の時代には、人の子らに対して、そのように知らされてはいなかったのである。

3:6 それは、異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあって、わたしたちと共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。

3:7 わたしは、神の力がわたしに働いて、自分に与えられた神の恵みの賜物により、福音の僕とされたのである。

3:8 すなわち、聖徒たちのうちで最も小さい者であるわたしにこの恵みが与えられたが、それは、キリストの無尽蔵の富を異邦人に宣べ伝え、

3:9 更にまた、万物の造り主である神の中に世々隠されていた奥義にあずかる務がどんなものであるかを、明らかに示すためである。

3:10 それは今、天上にあるもろもろの支配や権威が、教会をとおして、神の多種多様な知恵を知るに至るためであって、

3:11 わたしたちの主キリスト・イエスにあって実現された神の永遠の目的にそうものである。

3:12 この主キリストにあって、わたしたちは、彼に対する信仰によって、確信をもって大胆に神に近づくことができるのである。

しかし私たちはいつまでもイエス様を奥底に眠っているがままの「奥義」として眠らせておくわけにはまいりません。

2 コリント 4 章 4:5 しかし、わたしたちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝える。わたしたち自身は、ただイエスのために働くあなたがたの僕にすぎない。

4:6 「やみの中から光が照りいでよ」と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。

4:7 しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。

4:8 わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。

4:9 迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。

4:10 いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。

4:11 わたしたち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されているのである。それはイエスのいのちが、わたしたちの死ぬべき肉体に現れるためである。

4:12 こうして、死はわたしたちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのである。

それだは今日もペテロの説教に目を向けてまいりましょう。

3:21 このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかねばならなかった。

3:22 モーセは言った、『主なる神は、わたしをお立てになったように、あなたがたの兄弟の中から、ひとりの預言者をお立てになるであろう。その預言者があなたがたに語ることに、ことごとく聞きしたがいなさい。

3:23 彼に聞きしたがわない者は、みな民の中から滅ぼし去られるであろう』。

3:24 サムエルをはじめ、その後つづいて語ったほどの預言者はみな、この時のことを予告した。

3:25 あなたがたは預言者の子であり、神があなたがたの先祖たちと結ばれた契約の子である。神はアブラハムに対して、『地上の諸民族は、あなたの子孫によって祝福を受けるであろう』と仰せられた。

ヨエル、ダビデに次いで、モーセが登場します。神様とアブラハムとの会話が登場します。

「あなたがたの兄弟の中から、ひとりの預言者をお立てになる」(申命記 18 章)、それはイエス様のことでした。

「地上の諸民族は、あなたの子孫によって祝福を受けるであろう」(創世記 12・22・26・28 章)このあなたの子孫によってと言われているのはイエス様のことでした。

あそこにもここにも、聖書の中にイエス様が登場しておられます。

3:26 神がまずあなたがたのために、その僕を立てて、おつかわしになったのは、あなたが

たひとりびとりを、悪から立ちかえらせて、祝福にあずからせるためなのである」。

どうしてイエス様は遣わされたのでしょうか。それは祝福のためです。悪から立ち返らせて、祝福を得させるためです。このような素晴らしい目的のために遣わされた方を、どうして私たちは知らぬがふりをしておくことが出来るでしょうか。

4:1 彼らが人々にこのように語っているあいだに、祭司たち、宮守がしら、サドカイ人たちが近寄ってきて、

4:2 彼らが人々に教を説き、イエス自身に起った死人の復活を宣伝しているのに気をいら立て、

4:3 彼らに手をかけて捕え、はや日が暮れていたので、翌朝まで留置しておいた。

4:4 しかし、彼らの話を聞いた多くの人たちは信じた。そして、その男の数が五千人ほどになった。

サドカイ人たちは死後の世界を信じず、また復活を否定していました。ですから彼らはイエス様による教えにいらだち、使徒たちを捕らえて投獄しました。しかしイエス様は実際に十字架に枯れられ、死なれ、よみに下られ、三日目に復活なされ、わたくしたちのための身代わりの死を遂げられ、私たちを死と滅びから解放してくださいました。もしも死と滅びがないのならば、どうしてイエス様が存在しないもののために私たちのための身代わりになる必要があったのでしょうか。

私たちがどんなに研究し、知り極めたと思っても、存在するものは存在するのです。私たちは自分の都合で本当にはあるものを亡き者としているのです。自分の都合や好みで勝手に物事を決めつけているのです。しかしそれらはいつかは破綻をもたらすでしょう。破綻を抱えているのはこの聖書の教えなのか、それとも自分たちが今まで信じていた価値体系なのか…。多くの人たちはペテロらのいう事に価値を見出して信じました。そしてキリスト教は世界大の信じられる教えとなりました。日本ではまだまだ少数派かもしれませんが、このペテロの説教を思い起こし、イエス様を人生の焦点、中心とする時にすべてが分かるというお話を、私たちをお伝えしていきたいと願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。旧約聖書のあの箇所も、この箇所も、イエス様のことを言っていたのだと思うと驚き感動いたします。そのような聖書の中心であるお方が二千年前にこの地上

に赤子として生まれ、他の人と変わらずに人生の大半を過ごし、3年の公生涯の最後に十字架にかかれたことを知りますが、当時イエス様とじかに出会った人でも信じることの出来なかったことを知り、イエス様のことは隠された奥義であることを思います。しかし私たちはこのイエス様を聖書の焦点、そして私たちの人生の焦点として信じます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン